



えつ〜！40年超えの  
老朽原発が安全？  
そんなこと信じられ  
ますか！

### 例外中の例外の約束を破り 老朽化した美浜原発を再稼働

6月23日、関西電力は、福井県にある美浜原発3号機（加圧水型・82.6万キロワット）を再稼働させました。

3号機は、1976年12月に運転開始してから44年以上も経つ老朽原発です。東日本大震災で、福島第一原発が重大事故を起こした次の年の2012年、「原子炉等規制法」が改定され、原発の運転は原則40年までというルールが定められました。電力が完全に不足して人々の生活が成り立たなくなるような時にだけ、例外中の例外として、さらに20年の延長運転を認めることにしましたが、あくまで例外中の例外、40年経った原発は廃炉なのです。

ところが、原子力規制委員会が、この原則を骨抜きにして、規制基準（安全基

準ではありません）の審査に合格させてしまったために、現在4基の老朽原発の再稼働がもくろまれています。その第1号が美浜原発3号機です。

### 10年ぶりに再稼働させても 10月下旬には、また止まる

美浜原発3号機は、東日本大震災が起きた2011年5月から、10年間止まったままでした。反対の声を押し切って再稼働しましたが、今年の10月には、また停止します。テロ対策などに必要な「特定事故等対処施設」が完成しないうちに、原子力規制委員会からもらっていた5年間の猶予期間が過ぎてしまうからです。この施設がいつ完成し、3号機を動かせる状態になるかは未定です。

<裏面に続く>

**私たちは、フクシマを忘れません。**

全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL 045-575-1948  
yuniyoko.sakura.ne.jp

## 2004年に重大な死傷事故 中性子で脆くなる原子炉圧力容器

美浜原発3号機は、2004年8月に、運転中のタービン建屋で配管が破裂して蒸気が噴出、4人が死亡し7人が負傷する重大事故を起こしました。10ミリあった配管の厚みが0.4ミリにまで減っていたのが直接の原因でしたが、点検リストから漏れていたたり、熱水が通っている配管の真下で作業させるなど、安全対策の不備が厳しく指摘されました。この事故からでも17年。極めて複雑なうえに、長い間に、古い設備と新しい設備がからみ合った老朽原発は、他の原発以上に、どこに危険性が隠れているかわかりません。

そして、解決できない最大の問題は、長年の運転で中性子を浴びた原子炉圧力容器が、もろくなってしまうことです。圧力容器は交換することができません。圧力容器が壊れれば、すぐに重大事態です。

## 30キロ圏内に28万人 震度7の地震には耐えられない

今年3月、水戸地裁は、実現可能な避難計画がなければ運転を認めない、として、東海第二原発の運転を禁じる判決を出しました。美浜原発の周囲30キロにも28万人もの住民がいます。本当に避難できるのでしょうか。道が大雪で閉ざされていたら、とても避難できません。

建設当時、美浜原発で想定された最も強い地震は405ガルでした。現在は993ガルですが、震度7（1500ガル程度）の地震が絶対に起きないと言える人はいないでしょう。

関西電力は、運転から40年以上経って老朽化した高浜原発1号・2号機も再稼働させようとしています。そもそも危険な原発、ましてや老朽化した原発の再稼働など絶対に許せません！

【組合員N】

### ■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオンの組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

### ■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

### ■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！